

第8回
だいい かい

日本語の教え方

伊呂波

に ほんご おし かつ

レアリア・生教材

なまきょうざい

日本語国際センター専任講師 三原龍志
にほんごこくさい せんにんこうし みはらりゅうし

海外で活躍している日本語教師のみなさんから、よく「日本語教授法を知りたい」「すぐに使える授業活動を提供してもらいたい」という要望をいただきます。このコーナーでは、「コースデザイン」や「読解」「会話」「評価」などの基本的な教授理論、教授知識を解説します。日本語教授法に関する基礎固め、知識の再点検にお役立てください。

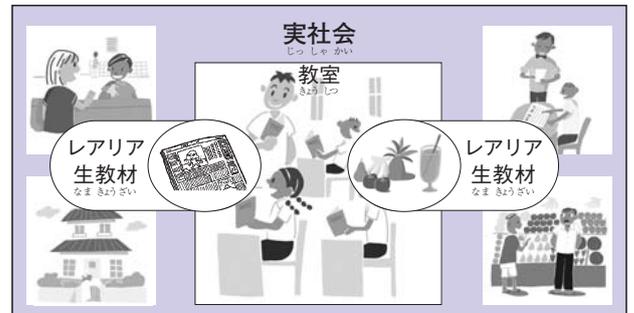
はじめに

レアリアや生教材ということばを聞いたことがありますか。授業で使っているという先生方も少なくないでしょう。教育のために作られたものではなく、実社会で実際に使われているもののことを指して、「レアリア」「生教材」「実物教材」などと呼ばれています。語彙の導入や文型練習のキューなど教具として使う場合にはレアリア、ニュースや天気予報などテレビ番組を聴解の学習に使ったり、新聞や雑誌の記事を読解の学習に使ったりするなど、それに含まれる情報を教材として使う場合には生教材と、使いわける場合もあります。ここでは、それらをまとめて「レアリア・生教材」と呼ぶことにします。

この稿では、レアリアや生教材を授業で使うということはどういう意味を持つのか、具体的にどのような使い方ができるかを考えます。

レアリア・生教材は、授業で使わなければならないのでしょうか？

先にレアリア・生教材は教育のために作られたものではなく、実社会で実際に使われているものと書きましたが、日本語を教えている多くの機関では、実社会で日本語を使うこと（＝コミュニケーション）がコースの目標のひとつになっているのではないのでしょうか。そのようなコースで授業を行う場合、レアリア・生教材を授業で使うことは単に珍しさだけでなく、教室の中に積極的に現実の社会を持ち込むことを意味します。つまりレアリア・生教材は教室の内と外をつなぐ通路のようなものなのです。その意味で、初級の授業でもレアリア・生教材を積極的に使う必要があるのではないのでしょうか。



レアリア・生教材にはどんな有効性があるのでしょうか？

1) 日本や日本語を学ぶことへの動機付けとなる

話で聞いたり、絵や写真でしか見たことがないものを手にとって実際の大きさや質感、場合によってはにおいや味が体験できることは、高い動機付けになります。また、初級の学習者でもたとえば店の名前や看板が読めて意味がわかったら、学習した日本語が実際に使えたことに大きな満足感を得ることができるでしょう。

2) 日本の文化や社会に関する情報を提供できる

『日本語教育通信』第59号 (p. 2)でもご紹介しましたが、レアリア・生教材は、文化の三角形（三つのP：Products、Practices、Perspectives）の「Products（産物）」に当たります。名刺でもメニューでも、単にそのものの名前や使い方を知るだけでなく、「Practices（行動、習慣）」の点から実際にどんな場面で必要とされるのかどのように使われているのか、また「Perspectives（背景）」の点からそれが必要とされる状況や背景とは何なのか、学習者自身が、気づいたり考えたりすることは異文化を理解する態度としてとても重要です。そのような機会の積み重ねは、異文化を理解する能力を高めるだけでなく、人間性豊かな成長をもたらすはずで

3) 実際の言語使用を体験できる

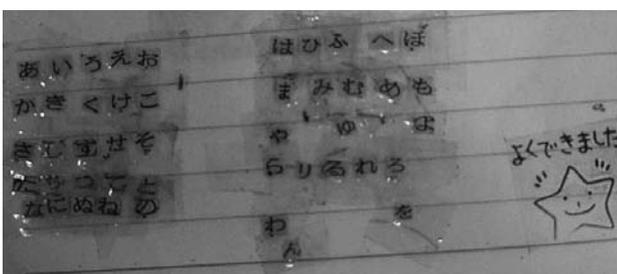
実生活で用いられるもの（非教材）を教材とすることで実際の日本語の使用という観点からの学習が可能になります。レリア・生教材は教室の内と外をつなぐ通路のようなものと書きましたが、情報を取ったり読んだりする目的を実際の目的と同じようにすることも必要です。たとえば、旅行のパンフレットを使う場合、ただ情報を読み取るだけでなく、どうしてそのコースを選んだのか、何を準備したらいいか、誰と行きたいかなど、実際にそのパンフレットを見て旅行をする気持ちで日本人が実際にものごとを使うように使ってみるといいでしょう。

レリア・生教材はいつでもだれに対してでも使えるでしょうか？

レリア・生教材はただ使えば効果があるというものではありませんが、だからといって主教材にした授業は考えにくいので、やはり通常の授業の補助教材として使用することが多いでしょう。その場合、学習者の能力を考えて、学習者にふさわしいものをふさわしい使い方提示する必要があります。

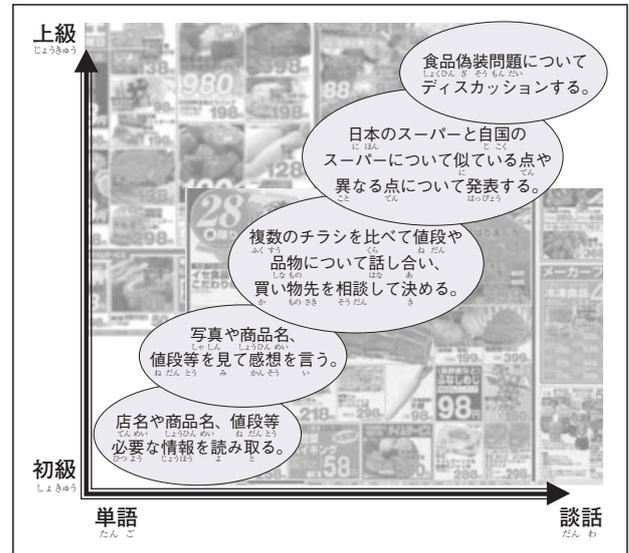
たとえばハンバーガーショップの「メニュー」*1を例に考えてみましょう。確かにハンバーガーショップのメニューは、カタカナ語や数字が多く、魅力的に作ってあるので初級の授業でも使えるのではないかと考えるかもしれません。カタカナや数字を学習したばかりの学習者にメニューや値段を読み取らせることは可能でしょう。しかし、本物のメニューを使って注文のロールプレイをすることができるでしょうか。よく見るとお店によって独自のメニューのシステムや細かな情報が多く、日本人でも不慣れな場合、すぐには注文できない場合もあります。注文のロールプレイに使いたい場合は、学習者に混乱や不安感を与えないためにメニューの内容がだいたいわかるレベルになって使うのがいいでしょう。

一方、ひらがなを覚えたばかりの学習者にも新聞や雑誌を使った活動も可能です。ある韓国の中学校の先生は、生徒たちに日本語の古新聞を1ページずつ配り、ひらがなを探して切り取り「あいうえお」順に並べるという宿題を出していました。



これでひらがなを復習することが可能ですが、それだけでなくこのような課題を通して、自分の国にも新聞があると日本新聞とは紙面の構成や表記などの点でちがいがあがあることを発見することもできるでしょう。このように、学習者に合わせて使うことに留意したなら、同じレリア・生教材でもいろいろなレベルによって使えます。

下の図は、スーパーのチラシ*2を初級から上級までどのように使えるかを示したものです。



レリア・生教材が持つ魅力とはなんでしょう？

ものは思い出や感動などさまざまな感情とともに存在する場合があります。たとえば、みなさんが旅行したとき、家族や友人に見せたい、教えたいというものとの出会いが必ずあるはず。この感情を誰かと分かち合いたい共有したいという魅力がレリア・生教材は持っています。そして、それは発話を促すことにつながります。その魅力を十分に授業に生かしてください。ただし、ものによっては短い期間しか使えないという「新鮮さが命」という面があるのも確かです。鮮度が落ちないうちに使ってしまいましょう。

*1 次のサイトにアクセスしてみてください。または、自分の国のハンバーガーショップのメニューから考えてみてください。

モスバーガー <http://www.mos.co.jp/menu/>

*2 スーパーのサイトでもチラシを見ることができます。

サティ北浦和店 <http://www.mycal.co.jp/saty/shop/kitaurawa/>

イトヨーカドー浦和店 <http://www.e-itoyokado.jp/030/>

参考資料

国際交流基金 (2006) 『日本語教師必携 すぐに使える「レリア・生教材」アイデア帖』スリーエーネットワーク

国際交流基金 (2008) 『日本語教師必携 すぐに使える「レリア・生教材」コレクションCD-ROMブック』スリーエーネットワーク

坂本正ほか (2008) 『多様化する言語習得環境とこれからの日本語教育』スリーエーネットワーク

文化庁文化語部国語課 (1994) 『異文化理解のための日本語教育 Q&A』大蔵省印刷局